

リハビリテーション科 この1年

PT 坂本 雅則 ・ OT 内田 喜大・窪田 博文

【理学療法部門（坂本）】

各PTへ専門（得意）分野を望む

対象疾患は整形疾患、脳卒中が主であるが、近年は嚥下障害、呼吸障害、そして小児関係の依頼も増えており、対象が多様化してきています。リハビリ質の確保のために、PTスタッフ全員で全て対応していくというよりも、むしろ専門性が重要になると思います。職場内でも少しずつ専門分野に分かれつつあります。また、10年前は広く浅く対応すべきと記載しましたが、名寄市内でPTが20名と増加し環境の変化に伴い、更に専門性が重要になってくると思います。

名寄地区機能訓練事業について

6市町村合同の事業として平成9年度より年間200日PTを派遣してきており、今年で11年目となりました。当初は在宅片麻痺者を対象にしたりハビリ教室に関わってきましたが、現在はリハビリ教室自体が消滅した地域もあり、介護予防事業にシフトしている地域が2つあります。今後も、介護予防的な事業が増えていくものと考えています。しかし、本事業について何がゴールなのか、いつまで継続すべきなのか、と言った声も聞かれます。

今後の目標について

・STの導入

失語症、構音障害、嚥下障害、高次脳機能障害に対応していきたい。

・OTの導入

現在の患者数に対応するためにOTの専門性も活用しつつ、PTとOTで協業して診療していきたい。

・連携

名寄市別地区のPT・OT・STは44名となった。日々の業務や毎月実施する合同勉強会の中でコミュニケーションを図っていきたい。

・平成20年4月の診療報酬改定

現在中医協で協議されており、4月の改定に合わせて機敏に対応していきたい。

【院内OT部門（内田）】

平成19年4月DC開設により、OT部門のスタッフは作業療法士2名、助手2名から半分になりました。通常行っていたOT種目も半分にし、行事は七夕、ふれあい広場、ジンパ、クリスマス会を行い行事も減りました。

外来OTもDCへ移行し、平成19年4月から12月までの入院OT実施人数は2820人で昨年度3156人の89.4%です。喪失体験とまではいかないですが軒並み減少です。しかしDC開設により患者さんは退院後、家族との距離を置いたり、部屋にこもらず孤立しないように、また困った事をスタッフに相談でき、趣味や適度な運動ができ、再発予防や生活の一部となっています。

今後の課題としては種目が半分になり画一的になった事、技能の向上や再発予防の為にSSTや心理教育を行っていない事です。新たなアクティビティーの導入やSSTや心理教育など勉強していきたいです。

【精神科デイケア（DC）部門（窪田）】

DCは何で始めたの？と思われる方のために、開設までの経緯を話したいと思います。

十数年前から精神科スタッフ内では、DCの必要性が言われてきました。そこでニーズ把握のため十二、三年前に外来OTを開設しました。その後、外来OTも軌道に乗り、病院機能評価でもDCの必要性を指摘されましたが、場所やスタッフの確保が困難でした。

平成17年秋には、精神科病棟一元化に向けて動きがあり、休止病棟空きスペースでの開設提案をOTで行いました。平成18年1月に病棟が一元化され、休止の第2病棟にスペースが出来ましたが、4月以降の医師確保が未定のため、開設は見送られました。4月以降も精神科は存続になりましたが、平成19年度の精神科存続が不透明だったため、具体的に開設準備を行えたのは、平成19年3月からでした。4月に試験運営し、ようやく平成19年5月にDC開設となった次第です。